



サン・ジャック女流彫刻会の作品を前に談笑する来場者
＝フランス・パリ

鹿児島拠点の女性彫刻家

パリで初の作品展

鹿児島大学名誉教授で文化勲章受章者の中村晋也さん(89)＝鹿児島市＝に師事し鹿児島を拠点に活動する「サン・ジャック女流彫刻会」は、結成40年を記念して5～11日、パリで初の作品展を開いた。メンバーは「制作への姿勢を正す機会になった。今後も互いに刺激を受けながら、挑戦を続けていきたい」と話している。

同会は女性作家が少なかった1974(昭和49)年に発足。名前は、第20回南日本美術展で留学生に選ばれたなどしてパリに渡った中村さんが親しんだサン・ジャック通りにちなんで付けた。

現在の会員は、日展で活躍し鹿児島の彫刻会を支える楠元香代子さん(62)＝熊本・崇城大学教授＝や野間口泉さん(55)＝中村晋也美術館学芸員＝をはじめ20～70代の12人。作品展を毎年、鹿児島で開いてきた。

パリ展では、中村さんを含む11人が40年記念展に向け制作した作品を中心に20点を並べた。展示だけで販売はしな

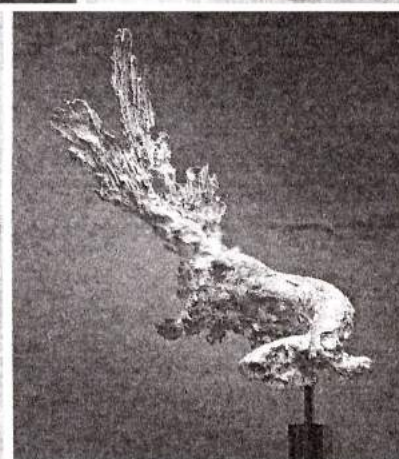
「支え合い世界に発信を」

かったが、来場者から作品を買いたいとの声もあったという。

初期メンバーの楠元さんは「支え合うことで、ここまで来られた。作品で世界の人に

発信できるように、さらに頑張りたいと感じた」。教員の協園奈津江さん(48)＝鹿児島市、会社員の前田真里さん(46)＝同＝は「今後もパリで作品展を開いていきたい」と話した。

(右田雄二)



パリ展に展示された作品。(左上から時計回りに) 楠元香代子さんの「ラ・セーヌ」、協園奈津江さんの「夏祭り」、野間口泉さんの「HIRARA IV」、前田真里さんの「泉」